

国語教育 相談室

小 学 校



国語教育相談室
No. 64

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.123 定価126円（税込）
2008（平成20）年9月19日発行
発行人＝常田 寛
発行所＝光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝村田印刷工業株式会社
デザイン＝秋葉 幹司

特 集

学校生活に生かせる「書くこと」の指導方法

— 記録文・報告文を中心に —



おはなし定期便

メアリーさんのドーナツ・クイズ
二宮由紀子



わたしとことば

一寸先は光 やなせたかし

教師力講座 「発問」って案外難しい！

書写の時間を考えよう

光村図書

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>
広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

一寸先は光

漫画家 やなせたかし

「一寸先は闇」という言葉がありますよね。たしかに突然に不幸はやってくる。ましてはくらのような漫画家とか絵本作家とか芸能人は二種の潜在失業者で、人気落ちればただのひと、明日の運命は予測できない。浮草稼業です。人気がある時は普通のサラリーマンより収入は多いし、チャホヤされる。得意満面、人気は永遠に続くと思いがちであるが、予告もなしに或る日突然消える。病魔におそわれて倒れたらそれでおしまい。まさに一寸先は闇だけれど、この闇を光におきかえてみると意味が逆転する。

明日を信じて生きることになる。実はこの「一寸先は光」という言葉は漫画界の先輩杉浦幸雄先生の造語です。杉浦先生は二種のオプチミストだった。

老境になっても足もとが危なくなっても銀座のバーで遊んでいた。「ぼくは楽天主義だ。エビキュリアンでいい。人生を楽しみたい。一寸先は光だ、絶望はしない。」

この言葉は多くの心に沁みた。「一寸先は光」と思うようになってから気分が楽になった。病気がちだったし、下積みの生活が長くていつまで経っても出世作がかけず、陽のささない暗い谷間の旅が続いていたがそれでも「一寸先は光」とつぶやきながら仕事を続けてきた。

かすかな光のようなものが闇夜行路の前途に見えだした時は、既に五十歳を過ぎていた。

アンパンマンがアニメ化されて人気が出てきた時は六十九歳、後期高齢者の年齢に近く、この職業ではぼつぼつ引退を考える年齢である。人生は解らない。一寸先は闇だが一寸先は光でもある。あまり早く人生に絶望しないでほしい。日本の年間自殺者数三万人というのは心が痛む。とにかく生きていれば晩年の幸福というのもある。基本的には人生はさびしい。それならば無理してでもつらいことは忘れて「一寸先は光」と信じた方がいい。



やなせ たかし

1919年高知県生まれ。三越百貨店宣伝部のグラフィックデザイナーを経て漫画家となる。主な作品に、『やさしいライオン』『アンパンマン』シリーズ(フレーベル館)『やなせたかし全詩集 でのひらを太陽に』(北沢社)など。2008年、東京国際アニメフェア2008第4回功労賞を受賞。

わたしとことば

一寸先は光 やなせたかし



特集

学校生活に生かせる「書くこと」の指導方法

— 記録文・報告文を中心に —

提言 記録文・報告文登場の意義 中西一弘

実践提案 ① 生きて働く「書くこと」の力を育む 服部英雄

実践提案 ② 主体的に様式を学び取り、工夫を生み出す指導 金野晶子

実践提案 ③ 報告文が生きて働く力に 新しい指導を考える会

教師力講座 ④

「発問」って案外難しい! 安田恭子
吉永幸司



書写の時間を考えよう ②

書写環境を整えよう — 授業に役立つヒント・アイデア — 藤井浩治

おはなし定期便

メアリーさんのドーナツ・クイズ 二宮由紀子

辛口コラム 一寸苦言

学びの環境づくり — 読み育ての日常生活環境を考える — 一徹国語人

2

10

14

18

21



特集

学校生活に生かせる 「書くこと」の指導方法

— 記録文・報告文を中心に —

提言 記録文・報告文登場の意義

大阪教育大学名誉教授 なかにし かずひろ 中西 一弘

「書くこと」の可能性と良さを知らせる ジャンル

日本の児童が書く作文は、世界に誇ることのできる実に高いレベルにある。が、あまり指導のない、遠足や運動会ばかりの課題では、書き手自ら満足に書けない悩みをいやと言うほど感じさせてきた。過ぎ去った学校行事なので、自分たちの経験ではありながら、なかなか書くことを思いつかない児童がいる。例外ではなく、かなりの数の児童になるのではないか。というのも、もともと児童は、「今」を澆刺と生きているからである。そのような児童にとっては、過去の想起は、指導がないと難しい。その結果、書くことがないという挫折感を味わいながら、無理に字を埋めていくことになる。能力発揮の前に、勝負がついているようなもので、「書くこと」に対して、理由のない苦痛感ばかりが浮き上がる。

このような課題による、「書くこと」への拒否感を「掃するためにも、児童が得意とする現時点に拠点をおいた課題、またはジャンルを提示して、「書くこと」の別の一面を、魅力ある一面を体感させる必要がある。ゆつくりと先生の指導を受けながら、何回も観察をくり返すことによつて、児童は少しずつ気づきを増し、それらを手短に記録していく。これなら、安心して作業が進む。そして、集まった記録を、ある型にはめて書き上げていく。

（左ページ）「仕上げの型」を生かす（参照）
成就感の得やすい「書くこと」が、記録・報告の文章である。これで「書くこと」の印象を「変させていく」。

学習主体が生きる「驚きと疑問」から

学校行事のような共同経験でなく、学習者自身の興味・関心を取り上げて、課題とする。そのため、日頃から、何に「驚き」、どのようなことに「疑問」を抱いているのか、話し合ったり書き出したりしておく。友達との発表に触発されたり、読書やテレビ番組からも見出したりしていく。

「書くこと」の單元では、課題発見へのこの用意がいつも冒頭に記されている。そこを讀んで、取り上げたい課題がすぐに浮かんでくるようにしたい。そのためには、説明文教材や文学教材を学ぶときから、提示されている驚きや疑問の具体的な表し方に注目しておく。疑問文の活用、感動的な指摘、具体例の示し方などの要素が丁寧に示されている教科書教材だから、読むこと、話すことなどの領域をこえ、この「驚きと疑問」を見出す意識を育てる。自分の抱いた問題こそ、解明推進の原動となる。共同経験でないだけに、この課題発見の準備学習は、国語科全体、いや、教科全体の学習成果を左右するはずである。「驚きと疑問」が昔から〈知〉探求

の原点だから。

観点を設けて

目の前にある対象を観察したり調べたりするので、その特徴をとらえることは簡単なようにみえるが、幾通りもあり、どうしてよいか、なかなか難しい。観察し調べる「観点」がなくては、まとまりにくい。

■「命名」(「どうぞよろしく」(一上)の観点から

自分には名前がある。学校にも、クラスにも。これを一枚の紙に書くのが、最初の記録(文?)。自己紹介の名刺だけでは終わらない。学校の教室ごとに名前がある。それを一枚ずつ記入していく、学校の平面図に張っていくと、校内案内図ができあがる。学校探検の報告文も、少し書き足すだけで完成する。教室にある物には、全部名前がある。それを書いていくと、これは無限とでもいえるほどの種類の記録文となる。一枚の紙の「名前」の記録から、報告文や記録文の「書くこと」が始まる。名刺の例から想像できるように、名詞があれば、動詞、形容詞、その他の語句は、無理なく引き出せる。

■「部分」に注目する観点から

「いろいろなくちばし」(一上)も鳥の全体ではなく、その一部分が対象である。どれだけの部分が引き出せるか、そこが調査・観察

の決め手となる。「しらせたいな、見せたいな」

(二下)も、その適用である。「かんさつ名人になろう」(二上)は、部分の、さらに部分の部分を観察していく。その結果が観察記録文となっている。部分といえども、より細部の部分がある。どこまで細かくしていくのか。「たんぽぽのちえ」(二上)で、ただの部分が登場しているか。読みの観点との連続性に留意。「おもしろいもの、見つけた」(三上)も一つのマンホールの部分に着目したものである。

「部分」に区できると、部分相互を〈比較〉して、共通点や相違点が引き出せ、「時間」の流れでみると、〈変化〉していく姿が鮮明になる。どのように〈変化〉していくかの説明に〈因果〉関係が示されると、よく理解できる。このように、多様な観点をもつことが、調査・観察において決め手となる。

■「観点」を組み合わせる

「アップとルーズで伝える」(四下)で複数の観点を組み合わせることを学ぶ。それを受けて、「生活を見つめて」(四下)では、どのような観点を選べよいか、その選定から始まる。複数の観点を活用するところから、「部分と全体」、「肯定と否定」、「昔と今」のよように、いくつもの観点の要ることが分かる。それらの組み合わせが、調査・観察の正否を決める。

「仕上げの型」を生かす

教材に掲載されている「たいせつ」や、書き方の例を参照のこと。「言葉の研究レポート」(五上)に示されている「レポートの構成」(p40)は、レポートを書くうえでおいに参考になる。「おもしろいもの、見つけた」(三上)には、伝えたい事柄を三つのカードに書いた例が示されている(p42)。「せつめい書を作ろう」(三下)は、日にちごとに内容が分けられている点が参考になる。このような型を与えることで、集まった記録を当てはめて書き上げることができる。

幅広い活用

「言葉の研究レポート」(五上)は、国語科独自の研究対象を取り上げる。どんな課題であれ、言葉についてなら、どこでも可能なレポートができる教材である。が、「言葉の」というところを他のものにすれば、他教科の研究レポートに活用できる。調査・観察という営みは、他教科でこそおいに力を発揮する活動ではないか。その応用範囲の広いジャンルであればこそ、新しい学習指導要領に規定されたのであろう。「メモ」(記録)とあわせて、教育の、学びの基礎能力をなすものである。



生きて働く「書くこと」の力を育む

兵庫教育大学附属小学校教諭

服部 英雄 はっとり ひでゆ

使用教材「かんさつ名人になろう」(二上)

1 子どもたちが書くためには

子どもたちが、生きて働く「書くこと」の力を身に付けていくためには、次の三つが重要であると考えている。

「一目は、「書き慣れさせる」ことである。学校生活、家庭生活ともに、さまざまな書く機会を見出し、子どもたちが鉛筆を持つようにする。そうすることで、子どもたちの「書くこと」への抵抗感を取り払うことができる。

二目は、「書く技術を明確にする」ことである。「書くことは技術である」と言われているように、我々はさまざまな技術を駆使して二つの文章を書く。これは、子どもたちにとっても同様である。子どもたちの実態に応じた「書く技術」を明確にして、きちんと身に付くようにしなければならない。

このとき、教科書教材が役に立つ。各学年の「書くこと」の教材には、その技術が明確に記述されているからだ。それらをきちんと理解して、子どもたちに指導することで、確かな技術を身に付けさせることができる。

さらに、重要なことは、その技術を対象化して、子どもたちが習得できるようにすることである。例えば、「ひと目見て気がつくことは、どんなことですか。」と教材があれば、それにしたがって気づいたことを書くだけでなく、その書き出したメモに

「気づきの書き出し」と名前をつけて対象化するのである。そうすることで、ほかの作文のときに生かせるようになる。

三目は、「切実感をもたせる」ことである。これは、子どもたちが自ら書きたいという意欲や、〇〇を伝えるために書くという目的意識などをもちたせることである。

このような切実感をもたせるために、単元の流れを工夫する。例えば、他の教科と合科的に単元化したり、単元をプロジェクト型(文集や劇としてまとめる)にしたりすることである。今回の実践でも、生活科と関連づけながら、最後に「かんさつ文集」をつくる活動を設定した。

2 実践の流れ

単元の流れは、「かんさつ文を書こう」↓「かんさつ文名人になろう」↓「かんさつ文集をつくろう」と設定した。

二目の「かんさつ文を書こう」では、生活科で育てている野菜を観察して、自分なりに気づいたことや思ったことを書くことが主な活動である。子どもたちは、これまでの作文経験を活用して書いた。また、生活科では、継続して観察文を書くようにして、「書き慣れさせる」ようにした。

二目の「かんさつ文名人になろう」では、教科書教材「か

んさつ名人になろう」を読み、書く技術を習得していくことが主な活動となる。ここでは、教材に書かれていることと、自分が書いた観察文を比較しながら、どんな技術が必要かを明らかにしていった。具体的な技術として、次の項目を板書して提示した。

- ・気づきの書き出し
- ・つたえたいことのけつてい
- ・くわしくかんさつ
- ・文をつなぐ

さらに、観察の方法についても「形」「大きさ」「色」「数」「さわる」「におう」「音」など、教科書にまとめてあることを参考にした。そして、それらを「五感を活用すること」と伝え、自分なりの観察文がそうになっているかどうか検討できるようにした。

ここで、重要なのは、教材を読んで理解して、そのあとに書くというのではなく、まず自分なりに書いて、それと教材を比較しながら、子どもたち自らが書くことの技術を見つけていくことである。こうすることで、子どもたちは、自ら技術を発見することになり、書くことの力の育成につながる。

三目の「かんさつ文集をつくろう」では、学んだことをもとに、もう一度観察文を書く。そして、友達と観察文を読み合ったり、自分の最初の観察文と比較したりしながら、学んだことを確かめる。次は、A児の観察文である。

◀ A児の観察文

A児
なすびが、もうとれそう
なぐらい、大きくなりま
した。
なすびが二つ目になって、
大きななすびと、とても小
さななすびがあります。
つぼみがいっぱいできてき
ました。つぼみの中は、白
でした。
早くなすびがしゅうかく
できるといいと思います。

「かんさつ文名人になろう」で学習したことを生かして、作文していることが分かる。特に、『もうとれそうなぐらい』というのは、教材の『大きさは、ビー玉ぐらい』という、程度を表現する技術を活用している。また、つぼみの中まで見ようとしていることも、最初に書いた観察文にはなかったことである。最後に、自分の思いも書き加えている。

このあと、子どもたちが書いた観察文を集めて、冊子にした。それが、「かんさつ文集」である。一方、生活科では、継続的に観察記録を書かせていった。

3 まとめ

以上、生きて働く「書くこと」の力を身に付けるために、教科書教材を活用しながら実践したことを、簡単ではあるがまとめてきた。このように教科書教材を活用すれば、他教科や「総合的な学習の時間」で生きて働く力が十分に身に付く。大切なことは、1でまとめた三つの要素を、どう具体化して指導するかということである。

主体的に様式を学び取り、工夫を生み出す指導

盛岡市立城南小学校教諭 金野 晶子

使用単元「調べたことを知らせよう」(四下)

1 単元構想

単元「調べたことを知らせよう」は、客観的なデータに基づいて考察を深め、論理的に整った文章で自分の考えを主張するための素地を養うことをねらいとしている。

そこで、教材「生活を見つめて」の学習では、まず、「子ども新聞」の記事や、自分たちの生活の中から疑問に思ったことをピックアップして、題材ごとにグループピングする。次に、グループごとに調査項目や調査方法を決めて調査活動を行い、結果を集計して表やグラフにまとめる。そこから分かったことをカードに書き出し、考察しやすいように整理する。そして、分かったことや考察したことを読み手に分かりやすく伝えるために適した構成を学び取り、構成や表現の工夫を加えて調査報告文にまとめる。最後に、学級で「調査報告会」を開き、感想や意見を交流するという学習を展開した。

なお、これらの学習を通して、「生きて働く言語の力を身に付ける」ために、次のような言語活動を設定した。

○取材の段階で、表やグラフという非連続型テキストの読み取りや考察を丁寧に行い、書く必要のある事柄を絞り込む。

○複数のモデルを比較検討することにより、「調査報告文」という表現様式の構成や表現方法を学び取る。

○既習の「初め・中・終わり」という構成を基に、段落の役

に焦点を当て、再調査を行った。その際、インタビューをしたり、本やインターネットで調べたりするなど、既習の調査方法を振り返らせて、調査方法を主体的に選択させた。

(2) 様式を学び取り構成表を作成する

調査報告文の基本構成や表現技法を主体的に身に付けるために、教科書の事例作文「四年組の読書生活」と、市内の小学生の優秀作品を集めた『文集もりおか』に掲載された「お手伝い生活」「外遊び」という二つの作文をモデルとして用いた。

ア 共通点から基本構成と表現技法を学ぶ

子どもたちがこの三つの作文を読んで見つけ出した共通点は次の通りである。これらの共通点から、調査報告文の基本構成と表現技法(よく使われる表現)を学んだ。

【構成と内容について】

- ・「初め」「中」「終わり」の三段落構成である。
- ・「初め」…調べたわけやグループのテーマが書かれている。
- ・「中」…調べたこと・調べた方法・調べた結果・分かったこと・追調査・グラフが書かれている。
- ・「終わり」…まとめ・思ったこと・考えたこと・改善策が書かれている。

【表現技法について】

- 〈書き出しの言葉〉わたしは(テーマの説明)・調べ方は・結果は・その結果・これらのことから(まとめ)
- 〈接続語〉それで・そこで・しかし(予想に反する場合)・また(二つのグラフや考え)
- 〈文末表現〉まとめました・選んでもらいました・順でした・分かりました・思います
- 〈考察で使うキーワード〉予想通り・思いの外・予想外

割と段落相互の関係や効果を考えて構成表を作成する。

2 実践の流れ

(1) 取材・調査結果を考察する

まず、自分が調査する題材について、学級の実態を調べるために、教科書の「アンケート例」や「たいせつ」に書かれている内容を参考にしながら、アンケートを作成した。(資料1)

集計結果は、各自の考察だけでなく、「報告会」で友達のグラフと比較したり関係づけたるために、パソコンを使って同一形式のグラフにまとめた。

グラフから、「分かること」↓

「考えられること」の順に考察をし、それぞれ違う色の付箋紙に書き込み、取材シートに貼って整理していった。(資料2)そこから明らかになった問題点

資料1

「ずいぶん」についてのアンケート!

あなたは、毎日何時間寝ていますか? (うっせんでさい)

☆ A. 5時間ぐらいいねてる

イ. 6時間ぐらいいねてる

ウ. 7時間ぐらいいねてる

エ. 8時間ぐらいいねてる

オ. 9時間ぐらいいねてる

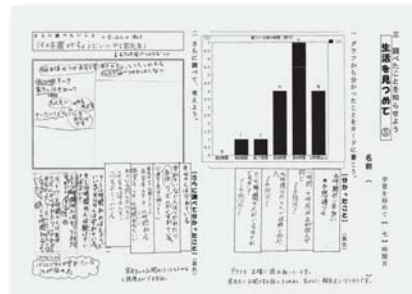
カ. 10時間以上ねてる

お願ひ 記号に丸をつけて下さい。自分の名前を書いて下さい。

ご協力ありがとうございました。

スリープ調査隊

資料2



イ 相違点から構成の工夫と効果を学び、自分の構成を決定する

アで用いた三つのモデル作文の構成表を比べ、その相違点を見つけた。これらの相違点から構成の工夫と効果を考え、各自の構成表を作成した。

《授業記録より》

教師 三つの構成表の違いはどこですか。

児童 「お手伝い生活」は、中の段落が多いです。

児童 二つのことを調べて、グラフも二つなので、結果も分けているんだね。

児童 「外遊び」は、終わりのところが三段落です。

教師 それぞれの構成のよさは何でしょう。

児童 高島さんの構成(教科書p35)37の事例作文)は、シンプルで分かりやすいね。

児童 「お手伝い生活」は、中の部分が詳しいので、説得力があります。

児童 「外遊び」は、自分の考えを詳しく書いているので力強い印象を与えます。

3 おわりに

本単元の学習に入る前までに、第五単元「調べて発表しよう」(四上)において、大まかな構成を考えて調べたことを発表するためのメモを作成した。また、具体的な資料が説得力を生むことも捉えている。これらの学習が、調査報告文の取材や構成の下地となっていた。教科書を丸ごと学習材として扱い、さらにプラスアルファ(開発教材など)を加えることにより、主体的な学習が可能となることを実感した。





報告文が生きて働く力に

新しい指導を考える会

使用教材 「言葉の研究レポート」(五上)

かつて、樺島忠夫氏は本誌で「書くこと」の基本は、『報告』である」と述べられた。(『小学校 国語教育相談室』No.23／一九九八年)新しい学習指導要領で低学年から明示された報告文。系統的な指導はもちろんだが、まずは樺島氏の言う「正確な『報告』の文章を書く能力」を身に付けさせたいと考える。

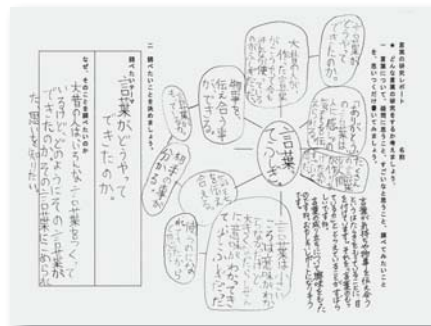
「言葉の世界」を広げ、自らの課題を

正確な報告文には、はつきりした課題が必要である。自らの課題をもつために学級で言葉について自由に思いを広げた。四月から、「ことわざゲーム」や「俳句作り」「漢字博士」などの学習を継続してきたので、言葉についての興味・関心は高まってきたようだった。

その後、「言葉って不思議」というテーマでマッピングをし(資料1)、自分の課題をしぼっていった。日頃から交流している四年生に伝えることとし、相手・目的意識もここではつきりさせた。下の写真(資料2)は、子どもたちから出された気づきや問題を短冊に書き、仲間分けしたものである。友達が言葉についてどのような思いを抱いたのか、どんなテーマにしたのかを交流することができた。

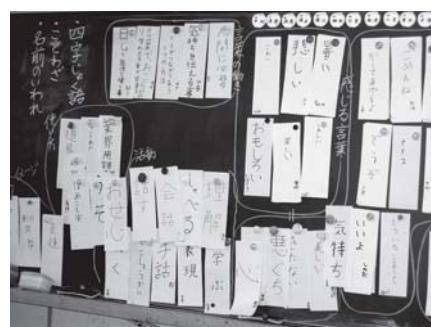
資料1

「言葉って不思議」マッピング



資料2

気づきや問題の仲間分け



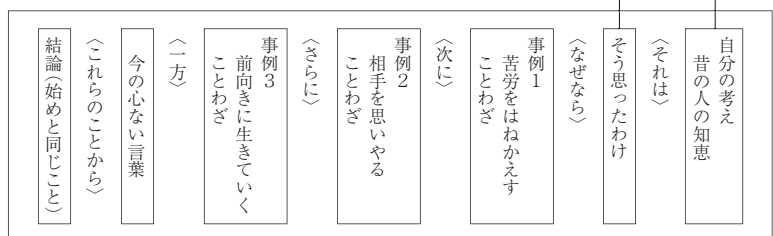
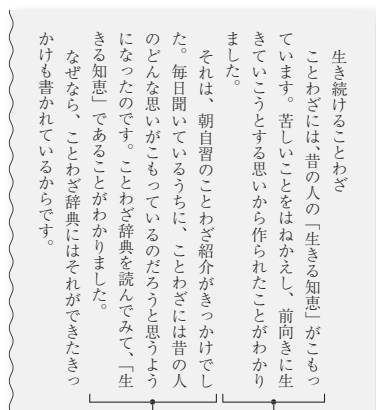
正確な事実と自分の考え

調べ学習では、ややもすると資料の引き写しで終わることがあるので、自分の力で資料を読み解き、思いや考えを自分の言葉で整理することを大切にしたい。そのためには、個に応じた選書の支援が必要となる。ブックリストを作成し、自分の課題に

資料3 調査カード



資料5 「調査カード」(資料3)をもとに考えた文章構成



接続語を効果的に使って文章構成の工夫を

調査カードをもとに、文章構成を考えたい。使うカードを決め、事実と感想、意見などを区別するために、色短冊を用いて構成表を作成する。頭括型、双括型の文章をモデルとして示したので、文章構成のヒントになったようである。自分の考えを明確に表現するために、文章構成を工夫しようとする姿が見られた。最終的に尾括型の文章は半分以下だった。

資料4 児童に配布した接続語

1 順接型 だから、それで、したがって
2 逆接型 しかし、けれど、だが、でも
3 添加型 そして、次に、それから
4 対比型 むしろ、一方、あるいは
5 転換型 ところで、さて、それでは
6 同列型 つまり、要するに、例えば
7 補足型 なぜなら、ただし、なお
8 連鎖型 接続語は用いず、後文で説明
(『新作文指導事典』第一法規 P358参照)

生きる力となる報告文

作文指導に力を入れていた当時の教え子から、「詩や作文などいろいろな書いてきました。が、今、世の中に出て一番必要なのはレポートを書く力です。」という手紙をもらったことがある。樺島氏の「出来事や事実を『報告』する」ということは、情報化時代の人間にとって、どのような文章を書く場合にも大切な技術」という記述が改めて思い起こされた。子どもたちの生きる力となつて役立つことを信じて指導していきたい。

「発問」にはいろいろな役割があります —「サクラソウとトラマルハナバチ」(五上)を例として—



今日はみんなで、この「サクラソウとトラマルハナバチ」の文章構成をつかみましょう。

段落ごとに主に何について書かれているのかを整理すると構成がわかりそうですね。

それぞれの段落に番号をつけておくと便利ですから、段落に番号をつけましょう。

このワークシートで作業をしましょう。

先生、2段落は、サクラソウとトラマルハナバチの両方が書かれています。どちらについての段落ですか？

この段落は、サクラソウとトラマルハナバチのどちらのことについて、より詳しく書かれていますか。

ぼくは、2段落が、サクラソウのことが書かれている段落だってわかったよ。

サクラソウのことに気づいたのは立派ですね。では、サクラソウのどんなことについて述べられていますか。

受粉をするのはサクラソウだから、3段落は、サクラソウについて書かれていると考えていいのかな。

ここに「受粉の仲立ち」という言葉がありますね。これはサクラソウのことですか。それともトラマルハナバチのこと？

みなさんがそれぞれの段落の内容をとて上手にまとめたので、文章全体の構成をしっかりと把握する準備が完了しました。次の時間は、この文章構成の特徴を考えてみましょう。

本時の学習でねらいとすることに直結した問いかけであり、**主発問**といえる。

主発問を解決するために学習段階を細かくして、活動しやすくした問いかけで**補助発問**にあたる。

主発問解決のための具体的方法で、補助発問を達成するために**指示**している。

必要に応じて配布する。(指示)

一人一人の学習の状況や子どもの問いかけに応じて教師が声かけをしているもので、**助言**といわれる。多くは個別にされるが、時に全体指導の場でも行われる。

本時の学習の**評価**となる言葉で、個々の学習を認め、価値づけをする大切な言葉かけである。また、次時への意欲にもつながる。

「発問」って意外と難しい！

知っておきたい「発問」の役割

元新宿区立西戸山小学校教諭 やすだ きょうこ 安田 恭子

この間、授業を見てくださった先生から、「あんなに次々と質問をしていったら、子どもたちの考える間がなくなってしまう。もっと考えて発問しないと…」

と言われました。

いちばん困っているのは発問です。学習のめあてを決めたいときに、「学習のめあてを決めましょう。」

という言葉で投げかけてよいのか、

「このお話で、みんなで考えたいことは、どんなことですか。」

と言ったほうがよいのか、迷います。



確かに、発問は難しいですね。例えば次にあげる二つの発問。どちらをどのような場面で使うとよいのでしょうか。「〇〇のことが書いてあるのは、何段落目ですか？」
「△段落は、何について書かれていますか？」
一見同じように見える二つの発問ですが、授業者の意図は違います。

発問上手になるために心がけたいこと



- ① 主発問は精選して
- ② 補助発問の準備を忘れずに
- ③ 言葉を吟味して発問を
- ④ 子どもの反応をしっかりと評価

2

「主発問」を投げかけただけでは、子どもたちが戸惑い、学習が進まないことがあります。そんなとき大切なのが「補助発問」です。「主発問」を解決するための方策を考えさせたり、段落を細分化したりして示すようにしよう。

1

「主発問」は、その時間の学習のめあてに直結するものです。ですから、大体は一つか二つです。主発問が四つも五つもあると、ピン트가ずれて、めあてから外れた学習になってしまいます。

4

教師は、自分が発問をするとき、その意図に即した答えのみを取り上げて学習を進めがちです。
一人一人の反応をしっかりと受け止め、学習の中で価値づけをしてあげることが大切です。
どの子どもにも、先生の発問に答えてよかったと思わせることが、次の学習への意欲づけにつながります。

3

発問の言葉は、音声であるため、時として消えてしまい、意図が伝わりきらないときがあります。そこで、きちんと板書しておくようにしよう。
また、学年によって、使うべき言葉、使うには早すぎる語句もありますので、十分に吟味をして、ふさわしい言葉で発問をしましょう。

P.10にあげた二つの発問ですが、前者は段落同士のつながりを学ぶときに大切です。また、後者は、その段落の要点をもとに文章構成をつかむときに有効です。この1時間で子どもと学ぶことは何かを考えると、発問はとても大切です。しかし、どんなに吟味に吟味を重ねた発問であっても、それを言葉にする先生の人間性によって、受け止める児童の反応は全く変わってしまいます。
その大切な発問に至るまでに、先生の目が見取っているか、発問をするときの音声、しぐさ、目の位置、間など、単に言葉を発するのではなく、子どもとの通じ合いの中でこそその発問であることを忘れないようにしましょう。



「何が知りたいの。」と発問の意図を問われて

京都女子大学教授 吉永 幸司

(1) 「先生、何が知りたいの。」と問われて

「こんぎつね」の授業をしたときのこと。教材研究を丁寧にして教室に向かった。学習は最終場面。「こんと兵十はどんな気持ちなのかを問う発問をした。読むことへの意欲も高まっていたし、内容の理解も確かだと思っていたので、どの子も、「はい。」と挙手をするだろう、授業は盛り上がるだろうと思込んでいた。

ところが、発問のあと、ほんの数人の子が挙手。それもいつものメンバー。この反応の鈍さにいら立ち、皮肉っぽく、「こんな簡単な質問に答えられないのですか。」という意味のことを言ってしまった。教室は、沈黙が続く気まずい雰囲気になった。その時、いつもはあまり発言しない子が立ち上がり、「先生は、何が知りたいのか分からない。答え方がわからない。」と、発言したのである。その意図が分からず、逆に、「では、あなたたちは、どんな質問だったら答えられるの。」と、問い返した。子どもたちは、「こんもかわいそうだけど、兵十もかわいそうだと思うから、『かわいそうなのはどっちかな』と聞かれたら答えられる。」「このあと、兵十はどうしたか聞いてほしい。」など、次々と言い出した。「どんな気持ち」より、おもしろい問いであった。そのとき、紋切り型の発問では、子どもの心に届かないことを知った。このことがあつてから、教室には、「先生、何が知りたいの。」と、思っている子がいると考えるようになった。若い頃の授業風景である。

(2) 発問の三つの類型 — 文章検討発問を大事にする

発問には三つの類型がある。
一つは答えがある発問。「だれ、いつ、何」を確かめる内容のものがある。これは文章を素直に読めば、答えがどこにある。正解か不正解かはつきりさせる発問である。事柄の確かさを確認することが主な目的である。

二つ目は、気持ちや感想、様子を問う発問。「どのように思いましたか。」「気持ちを考えましょう。」というように、見方や考え方を確かめるのが目的なので、正解か不正解かの区別はあまりない。考え方の方向が間違っていなければ、おおむね可とする場合が多い。

三つ目は、自らの考えを整理し、語や文章を関係づけて答えを導き出すもの。「二つの文を比べましょう。」「考えのわけや根拠はどこですか。」など、自分の読み取りを明確にするために語と語、文と文を関係づけて答えさせるのである。正解や不正解ははっきりしないが、考える筋道を論理的に説明したり、根拠となる語や文、文章を活用して、説明したり表現したりするので、考える力が育っていく。この発問がうまく授業で機能すれば、「先生、何が知りたいの。」と問われることはなくなるだろう。

授業は、発問の三つの類型をうまく組み合わせ構成すると分かりやすい。

書写環境を整えよう

―授業に役立つヒント・アイディア―

尾道市立土堂小学校教諭 藤井 浩治

書写授業を進めていくうえで、児童が学びやすい環境を整えたい、改善したいと感じることは多い。しかし、どうしてよいか分らないでいる先生方もいるのではないだろうか。私が諸先輩から教えていただいたり、研究会に参加して取り入れたりした工夫をいくつか紹介したいと思う。

1 紙ばさみ

厚紙を表紙にして、新聞紙をノートのように綴じた「紙ばさみ」を児童個々に作らせる。机の横に掛けておき、授業中に自分の書いた半紙をはさんでおかせる。

3 ペットボトルの筆洗い

手洗い場や、教室で筆を洗わせると、床が墨で汚れてしまつて困ることが多い。こんなとき、小型のペットボトルを筆洗いに利用するとよい。

〈筆洗いの手順〉

- ① 授業前にペットボトルに水を入れておかせる。
- ② 授業後に机の上で筆を洗わせる。
- ③ 書き損じの紙で筆をぬぐわせる。
- ④ ペットボトルの水を手洗い場に捨てさせる。

4 見本(基準)に書き込み

授業のねらい、自己の課題、相互評価でもらった意見、気づきを自分で見本に書き込んでいく。そうすることで授業のねらいが常に意識化される。また、見本(基準)と自分の文字との比較により、自己の課題を知り、それを解決しようとする自学自習の態度が身に付くのである。



〈紙ばさみの効用〉

- ① 児童の書いた半紙が床に散らからないので、机間指導の邪魔にならない。
- ② 書いた半紙が汚れにくい。
- ③ 書き損じの半紙を保存できるので、後片づけの際に、筆や硯を拭くことに利用できる。



紙ばさみ

2 毛筆準備体操

毛筆書写の授業では、授業の初めに書写道具を準備する時間が必要である。できるだけ短時間で準備させたいが、声かけだけでは早く授業を始めることはできない。また、準備ができて毛筆の穂先が固くなつていてすぐに書くことが困難である。そこで、自作の「毛筆の基本点画プリント(B4判)」を使って「毛筆準備体操」を取り入れている。準備ができた児童からプリントに書き始めるのである。

〈毛筆準備体操の効用〉

- ① 基本点画の復習ができる。
- ② 早く準備できた児童の時間を有効活用できる。
- ③ 毛筆に墨をなじませることができる。



5 わりばしの活用

見本(基準)と自分の文字を比較することから、自己の課題を発見できることは先にも述べたが、このとき「わりばし」や「竹ひご」を利用するとよい。見本と自分の文字の上のせて、「画の長短や方向」「文字の中心」を確認する。初めに使い方を示してやれば、自分で工夫して使い始める。書写道具の中に常備しておくことが利である。

6 練習用紙の活用

毛筆書写の個別指導は、書写技能に自信のない教員には負担である。こんなときには練習用紙を活用すればよい。練習用紙には、画の輪郭を縁取った「かこ書き練習用紙」と画の中心を小筆で書いた「骨書き練習用紙」などがある。これらの練習用紙を事前に中質紙に印刷しておけば、授業ですぐに使用できる。

また、応用として、児童自身に自己の課題に応じた練習用紙を作らせる学習方法もある。児童の思考・判断力が高まる学習場面となる。

◀ かこ書き練習用紙



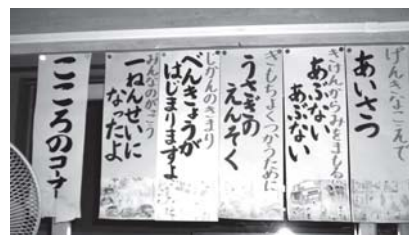
◀ 骨書き練習用紙



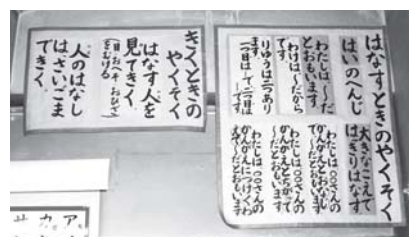


教科書体

明朝体活字



◀ 一年生の教室掲示

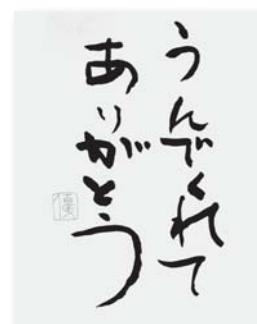


9 学校内の書き文字環境

学校内には各種多様な掲示物がある。児童の目に自然に触れるこれらの掲示物が児童に与える影響も少なくない。

例えば、左図のように明朝体活字の「口」と教科書体を比較してみると、画の「接し方」が違っていることが分かる。このように活字には、画の「長短・方向・組み立て方」において書き文字と異なっているものがある。児童の目にはできるだけ、活字やデザイン文字ではなく「書き文字」を見せる環境が必要である。

左の写真は一年生の教室掲示であるが、毛筆を使って分かりやすく丁寧に書かれていて担任の意欲が感じられる。



7 「総合的な学習の時間」と連携した教育活動①

〈各種行事での掲示・卒業式へ向けて〉

各種行事で、児童の書いた作品を掲示する。例えば、卒業生に感謝の気持ちを込めた掲示物を作成し、卒業式で飾る。

① 三年生：「ありがとう」「おめでとう」を書く。

② 四年生：卒業生が文化祭で歌った思い出の歌詞を書く。

（歌詞を全員で分担して、折り紙に「一文字ずつ書く。」）

③ 五年生：卒業生の名前を短冊に書く。

④ 卒業生は家族へ向けて感謝の言葉（メッセージ）を書く。

掲示物を作成することを通して、卒業式に向けて全校の児童の気持ちを高めていくことになる。また、素晴らしい思い出の一日にしていくための心の込められた演出としての掲示物となる。

卒業生は、自作のメッセージを卒業式終了後に、家族に手渡すようにしている。



8 「総合的な学習の時間」と連携した教育活動②

〈用紙・用材の工夫〉

いつも半紙に文字を書かせるのではなく、図画工作科や「総合的な学習の時間」と関連をもたせて、画用紙や色画用紙、板、うちわなどに書かせる活動も児童の興味・関心を高める意味で有効である。

「総合的な学習の時間」で福祉体験をしたあとに、感動を俳句で表現した。その俳句を毛筆で画用紙に書いてミニ屏風に仕立てた。

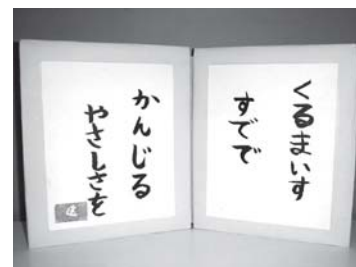
また、コップ（廃物利用）に紙粘土をつけて絵の具で色をつけ、毛筆で俳句を書いた。体験の報告として作品展を開く活動や、体験のお礼としてプレゼントするなどの活動につなげることができる。



▶ 布に絵の具で文字を書いたタペストリー



▲ 福祉体験後の俳句（ペン立て）



▲ 福祉体験後の俳句（ミニ屏風）

おわりに

私の勤務校では、ジャイカ国際交流の関係から、南アフリカの教員が毎年視察に訪れている。この機会を利用して、日本の伝統文化にも触れてもらおうと、児童と二緒に書写の授業を体験してもらっている。このようにあらゆる機会を活用することで、児童の書写に対する関心・意欲を高める実践を行っているのである。

書写授業に役立つヒント・アイデアのつもりで、私の身の回りの実践を紹介させてもらったが、読者の皆様に何か一つでもヒントになれば幸いである。



◀ ジャイカ国際交流



※「おはなし定期便」は、子どもたちへの「読み聞かせ」や「朝の読書」の時間などに活用ください。

メアリーさんのドーナツ・クイズ

二宮由紀子

その朝、めんどりのメアリーさんがドーナツ屋さんにはいつて、「チョコレートドーナツと、ホットミルクを」と注文したとたん、あたまの上でがらんがらんと大きなかねの音がなりました。

「おめでとうございます、メアリーさん。あなたはわたくしたちの店の二万人めのお客さまです」

目の前の店員さんがそうさげぶと、ならんでいたほかの店員さんたちも、ばちばちといつせいに拍手します。

「まあ……わたしが……？」

「そうですとも。はい、どうぞ。二万人めのお客さまへの記念品です」と、店員さんはメアリーさんに、大きなリボンのついた白い箱をわたしました。

店の中にいたほかのお客さんたちも、

「おめでとう」

「おめでとうございます、メアリーさん」と、メアリーさんにむかつて、ばちばちといつせいに拍手します。

メアリーさんは、赤くなりながら、

「まあ、ありがとうございます。ええと、箱にはなにがはいっているのかしら？」

と聞きました。

ドーナツのつめあわせセットだといいなと期待しながら聞いたのですが、

「わたくしたちの店の特製紙ナプキンのつめあわせセットでございます」

というのが、にこにこした店員さんの答えでした。

「……ああ……あら、そう……そ……それは……ありがとうございます……うれしいわ……」

メアリーさんは、がっかりしたのをかくして言いました。

すると、店員さんは、もつとにこにこして

「はい。そして、じつは、わたくしたちの店からのプレゼントはこれだけではございません。もうひとつ、もつとすばらしいプレゼントがあります」

と、言いましたので、

「まあ、なにかしら？」

メアリーさんは、顔をかがやかせました。

もしかしたら、一年間ドーナツ無料食べほうだい券とか、それとも、もしかしたら、十年間ドーナツ無料食べほうだい券かもしれません。それなら、ただのドーナツつめあわせセットよりも

もつともつとすばらしいではありませんか。

店員さんは、にっこりすると、胸をはつてこう言いました。

「はい。では、メアリーさん、あなたにはこれから二万人めのお客さまだけのビッグチャンスとして、ドーナツ・クイズに答えていただきます。ドーナツ・クイズの三問全部に正解すると、なんとハワイ旅行にご招待！」

また、ばちばちとほかの店員さんたちが拍手しました。

店のお客さんたちは

「いいわねえ」

「でもメアリーさん、答えられるかしら？」

とささやきあつています。

「まあ」

メアリーさんは、きゆうに胸がどきどきしてきました。

「こんなことになるんだったら、ちゃんと勉強してから、ドーナツ屋さんに来るんだったわ」

と思いました、もう勉強するには間にあいません。

「ではさっそく、第一問」

と店員さんは言いました。

「ドーナツという名前は『どうなってるの？』という意味からつけられた名前である。マルか、バツか？」

「……え、ええと……バツ……？」

メアリーさんは答えました。あんまりはつきりと自信はないけれど、そんな意味ではなかった気がします。

すると、

「バツ！ メアリーさん、正解です！」

ばちばちと店員さんたち全員と、お客さんたち全員がいつせいに拍手しました。

「よかった」

メアリーさんは胸をなでおろしましたが、



にしむら かせ／絵



「さあ、では、つづいて第二問です。ドーナツのあなは、もともと、自動車のタイヤのあなに似せてつくられたものである。マルか、バツか？」

「……え、ええつと……」

メアリーさんは、まよいました。

目の前のガラスケースの中でならんでいるドーナツに答えを聞いてみようかと思いましたが、そんなカンニングみたいなまねはできないし、だいたい、聞いたところでドーナツが答えてくれるかどうかかわかりません。

「それに、ドーナツたち自身も、そんな昔のこと、知らないかもしれないしね。じゃあ、もう、あてずっぽで答えるわ。バツ！」

ぜんぜん自信はなかったのですが、

「バツ！ メアリーさん、正解です！」

店員さんたち全員と、お客さんたち全員がまた、ばちばちぱちといっせいに拍手しました。

「メアリーさん、すごいですね。あと二問正解したら、ハワイ旅行ですよ。いま、どんなお気持ちですか？」

「ええと、ええと……油の中で揚げられているような気持ち」

メアリーさんは答えました。

だんだん、ドーナツの気持ちかわかってきたような気がしてきました。これなら、ハワイ旅行もまちがいないかもしれません。

それで、

「さあ、では、メアリーさん、いよいよ、最後の問題です」

と、店員さんが言ったときには、

「はい、いいですよ」

と、メアリーさんは、にこにこして答えていました。

あたまの中にはハワイの明るい太陽がかがやいています。青い海に白いすなはま。新しいビギニの水着を着てストローでパイナップルジュースを飲むメアリーさん。

「ほほう、メアリーさん、自信たっぷりですね。それでは、最後の問題です」

と、店員さんはおごそかに言いました。

「ドーナツがはじめてつくられたのはハワイである。マルか、バツか？」

「マル！」

メアリーさんはすぐ言いました。パイナップルジュースを飲みながら、海岸でドーナツを食べるのは、とつてもぴったりのことなからです。

なのに、

「ぶつ、ぶつ、ぶぶー！ 正解はバツ。メアリーさん、不正解です！」

店員さんは言いました。

「さんねんでしたね、メアリーさん。あと二問だったのに」

「……あ……ええ……はい……」

とうなだれてがつくり肩を落としたメアリーさんに、店員さんは明るい声で、こう言いました。

「でも、がっかりしないで、メアリーさん。ハワイ旅行はだめだったけど、はい、こちらをどうぞ」

「まあ、なにかしら？」

メアリーさんが身をのりだと、店員さんはにこにこしながら、言いました。

「はい、ご注文のチョコレートドーナツとホットミルクでございます」というわけで、このおはなしはこれでおしまい。



二宮 由紀子（にのみや ゆきこ）
童話作家、翻訳家。一九五五年大阪府生まれ。「ハリネズミのフルフル」シリーズ（文芸堂）で、赤い鳥文学賞受賞。めいどりのメアリーさんシリーズ「ホットケーキいん？」「アイスクリームこっちゃん」（ポプラ社）など、著書多数。

辛口コラム 一寸苦言

学びの環境づくり

— 読み手育ての日常生活環境を考える —

一徹国語人

児童をより深くより正確な読み手に育てるために、教師たちは常に教材の分析と指導法・学習法の工夫を重ねている。しかし、その成果はどうかというと、必ずしも高い成果が得られているとは言えない場合が多い。

児童の日常生活が変化し読む行為が減少していることが成果を得がたくしていると考えて、朝読書の時間を設定したり、学校課題図書を選定したりする学校も多い。

そこで今回は、直接的な毎日の授業のことではなく、学び手を取りまく環境の改善について考えてみたい。

会津若松市教育委員会が平成十四年に策定した『あいづっこ宣言』というリーフレットがある。市内に住む児童生徒の心のバイブルとして各家庭に配布されているのだが、「やつてはならぬやらねばならぬ ならぬことはならぬものです」として精神の育成

を目指すところは、会津藩時代からの伝統的訓導律らしく背筋がぴしとする。

山口県萩市立明倫小学校では、吉田松陰の著述や言行録から、各学年の児童に学びとらせたい文章・語句を選び出したものを与えている。それを毎朝子どもたちは朗読している。小学二年生でも朗読できるのがすごい。解釈は当然先生が例をあげながら平易なものにされていることであろう。漢籍の素読や解釈を「読み手育て・学び手育て」に生かそうとする例は他にもある。

山形県立米沢興譲館高校は、前身が米沢藩の藩校である。儒学者細井平洲が招かれて開かれたが、平洲の教えは武士だけでなく多くの人々を育てたらしい。平洲の定めた「学則」や高校生として考えさせたい内容のものを選んでいくつもの課題文として与えて音読させている。

岐阜県恵那郡岩村町では、儒学者佐藤一

斎の箴言集『言志四録』を児童・生徒だけでなく町内全体に広げている。この本には、人の生き方・生活の仕方を短い文章で示したものが多く、そこでその抄本の各文を短冊板（幅二十五センチ、長さ二メートルほど）に書いたものを家々の入口（門や玄関など）に掲げている。それぞれの家の文章は全て違う。家の人は毎日の出入り時に読んで生活の訓とできる。他家の前を通ればその家が掲げている文章を読んで学ぶことができる。

「人間は何でできているのか」を自分自身に問える教育環境づくりが、自ずと良い読み手・学び手を育てていく。漢籍や格言・律文でなくともいい。要是学校全体・家庭全体・地域全体が一つの土俵に乗って毎日の生活を見つめたり語り合えたりできる環境づくりの適切な工夫が求められている。

教科書編集部便り

今号の特集では、「書くこと」について取り上げました。そこで、今回は、弊社教科書の「書くこと」教材にまつわるちょっとしたほれ話を紹介したいと思います。

教科書からの広がり① 「おもしろいもの、見つけた」(三上)

「おもしろいもの、見つけた」は、自分が見つけた「おもしろいもの」についての紹介文を書き、友達に知らせるという教材です。作例中にある、動物の写真のついたマンホールのふたをきうかけに、身の回りのマンホールのふたに目が向くようになったという先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、このマンホールのふたですが、実は国土交通省の「第十四回(平成十七年度) いきいき下水道賞」を受賞しています。このマンホールのふたがある神戸市では、平成九年から、「神戸マンホールインフォメーション事業」が行われています。これは、マンホールのふたを広告媒体としてさまざまなもののPRを行うというもので、そのつに神戸市立王子動物園のジャイアントパンダのマンホールもあります。そして、そのふたが弊社教科書に取り上げられたことを受け、この賞の受賞となったのだそうです。

「いきいき下水道賞」とは、下水道に関する国民の理解・関心を深めるために、「見える下水道」事業に向けた取り組みとして特に優れたものを表彰し、広く紹介するものだそうです。特徴あるマンホールのふたが弊社教科書に掲載されたことで、子どもたちがマンホールというものの、ひいては下水道の役割に関心をもつようになることを期待しての受賞なのだろうと思います。

お知らせ

研究会のご案内

平成二十年度愛知県東海市教育実践総合発表会

開催日 平成二十年十一月六日(木)～二十日(木)

会場 愛知県東海市の小学校十二校・中学校六校

テーマ 「学びなる授業改革に挑む」

中学校区ごとのテーマを切り口に、子どもたちを見つめ、教材をひもとき、よりよい授業を築き上げようとする教育実践発表会です。詳しい内容、参加申し込みについては、左記までお問い合わせください。

連絡先

東海市教育委員会 学校教育課
TEL 〇五二(六〇三)二二二一
E-mail gakkyou@city.tokai.jp
<http://www.city.tokai.aichi.jp/~kyouiku/kyouiku.html>

京都市立御所南小学校 研究発表会

開催日 平成二十年十一月二十日(木)
十時半～十七時

テーマ

小中一貫教育コミュニティ・スクール教育研究発表会
―教科を貫く読解力の育成をめざして―

内容

公開授業(各教科、新教科「読解」、総合的な学習)

講演

文部科学省初等中等教育局教科調査官 井上 一郎

連絡先

京都市立御所南小学校
TEL 〇七五(二二三)〇一四八
FAX 〇七五(二二三)〇一四九

編集部では、この教材がこのような形で注目されることになるとは予想もしていませんでした。そのため、受賞の報を耳にしたときには、驚くと同時に教科書という媒体の可能性の大きさをあらためて感じるものとなりました。

教科書からの広がり② 「生活を見つめて」(四下)

少し形は違いますが、教科書が学校現場以外で用いられた出来事がありました。それは、日本外来小児科学会の学会誌「外来小児科」第十巻第号(平成十九年三月発行)に、論文の書き方のモデルとして「生活を見つめて」が掲載されたことです。

「生活を見つめて」は、生活の中で疑問に思ったことの中からテーマを決め、アンケート調査などを行い、報告文にまとめる学習を行う教材です。この教材に示した手順が医学論文を書く際にも有効であるとして、取り上げられました。掲載誌では、紙面がそのまま引用され、教科書に示した手順や報告文の組み立てに沿いながら医学論文の書き方が解説されています。

教科書が、教室や子どもたちの手を離れてもその役割を果たす場があることを知り、たいへん嬉しく思いました。

平成十七年度版の教科書が使われ始めて今年で四年目。この間、こうした教科書にまつわる小さな出来事も、一つ二つと増えてきています。先生方のご実践の積み重なる一方で増えていくこうした出来事も、またご紹介していきたいと思っています。

「言語教育振興財団」研究助成金 一般公募

言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、優れた研究開発を行う団体又は個人に対して助成します。

◇助成内容

- ①言語教育の内容・方法に関するもの(教育内容・方法部門)
- ②言語教育教材の質的向上に関するもの(教材部門)
- ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)

◇研究期間

平成二十二年四月～二十二年三月(原則二年間)

◇応募資格

言語教育(国語、外国語、日本語等)に関して研究開発を行う教員
教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体

◇助成件数及び金額

助成件数は八十件まで。助成金額は二件につき二十万～五十万円

◇応募方法・締め切り

- ・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書又は実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成二十年十二月二十五日(木)必着で、当財団事務局に郵送。
- ・申請用紙を希望される方は、直接又は返信用封筒を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。
- ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に取り扱います。

◇決定・発表

当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成二十二年二月末までに通知。平成二十二年三月末に銀行振り込みで交付します。

◇問い合わせ先

財団法人「言語教育振興財団」事務局
〒一四一・〇〇二一 東京都品川区上大崎二・十九・九
TEL 〇三(三四九三)七三四〇
FAX 〇三(三四九三)二二七四



平成17年度版小学校国語教授用ソフト 大好評 絶賛発売中!!



光村「国語デジタル教科書」は、
プロジェクタなどの教材提示装置用に
開発された一斉学習のためのソフトウェアです。
全員で同じ画面を見ながら学習することで、
授業に一体感が生まれます。

光村 国語デジタル教科書 1~6年

Windows®版

学校フリーライセンス価格：各学年 52,500 円(本体 50,000 円)
※「学校フリーライセンス」は、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。



体験版と「実践活用ガイド」を無料配布中!

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

※Windows®は、米国マイクロソフト社の登録商標です。

光村図書

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
TEL 03-3493-2111 (代表) 03-3493-4742 (直通) FAX 03-3493-5483
E-mail digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

「飛ぶ教室」の人気連載対談〈あなたが子どもだったころ〉が本になりました。



河合隼雄と七つの個性が織り成す、異色の対談集!

ここに子ども力を育むたくさんのヒントがある。

- 山本容子 (銅版画家) — 人の考えないことを考えてみせる力
- 鶴見俊輔 (哲学者・評論家) — 創造性を身につける力
- 筒井康隆 (作家・俳優) — 人を驚かせる力
- 佐渡裕 (指揮者) — 強い思いを蓄え成長する力
- 毛利衛 (宇宙飛行士・理学博士) — 環境をうまく受け入れる力
- 安藤忠雄 (建築家) — 遊びからイメージーションを生み出す力
- 三林京子 (女優) — 体当たりの挑戦を積み重ねる力

子ども力がいっぱい 河合隼雄が聞く「あなたが子どもだったころ」

定価 1,800 円 (本体 1,714 円) ISBN978-4-89528-421-9

光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2505 FAX.03-3493-5483 <http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

大好評
発売中

光村
図書